

カシワ

Quercus dentata

ブナ科



カシワ

名前の由来

カシキ（炊）ハ（葉）＝古代、飯を炊（かし）ぎ盛るのに多く用いたことから。また「カシワ」は、食物を盛る器として使われる木の総称でもある。漢字名：櫨、柏

特定種

大正のカシワ林：^{※1}北海道指定天然記念物

大通公園一帯のカシワ林、^{※2}勇足神社立木カシワ、^{※3}上押帯神社立木カシワ、^{※4}それぞれ町指定の天然記念物

※1：帯広市大正町445,446、※2：芽室町本町9-1、※3：本別町勇足151、※4：本別町押帯423

形態的特徴

海岸から山地の日当たりのよい所に生える落葉樹。樹高20m、太いものは1m以上になる。雌雄同株。葉は倒卵状長楕円形、長さ12～30cm・波状鈍鋸歯縁、基部はくさび形に狭くなりやや耳状、葉柄は極めて短い。裏面に毛を密生、質は厚くやや革質。互生する。雌雄異花。雄花序は黄緑色で長さ8～15cm、新枝の下部に下垂。雌花序は黄緑色でやや紅色を帯び、新枝の上部の葉腋につく。5～6月開花。雌雄異花。果実はいわゆるドングリで、楕円形～球形、長

さ1.5～2cm。総苞（殻斗。ドングリの「帽子」）は杯状、総苞片は柔らかい棘状で、らせん状に密生してそりかえる。9～10月に成熟、初め緑色で後に褐色になる。

類似種との見分け方：カシワは葉の表面がザラザラなのに対し、ミズナラはツルツル。カシワの枝先に毛があるのに対しミズナラは無毛。カシワのドングリの総苞（ドングリを鞘状に包むところ。ドングリの「帽子」）はささくれるのに対し、ミズナラはささくれない。



カシワの雄花



カシワの雌花



カシワの種子(ドングリ)。帽子には柔らかいトゲ



カシワの葉。波のような大きく丸っこいギザギザ。表面はザラザラで裏面には毛が密生



カシワの樹形。枝先はミズナラよりゴツい



カシワの樹皮。縦に裂け目がありゴツゴツ



カシワの冬芽。毛が生えている



カシワの枝先の葉

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期		■										
結実期						■						

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

高く乾燥した平地、開けた谷、海岸に近い平地に生じ、純林をつくる場合が多い。海岸林の最主要樹種。土壌：埴質壤土、適潤性～弱乾性、通気の悪い土でも耐える、pHは耐酸性、堅密度は堅くても耐える。陽性木。

分布：国外分布は、南千島、朝鮮、中国東北部、台湾。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域。十勝地方生育状況は、全域。特に海岸、段丘林、畑の中の孤立林。

繁殖生態・寿命

花は5～6月に開花、種子は9～10月に成熟。種子はネズミ類やリス類など小動物によって分散する。寿命：帯広市

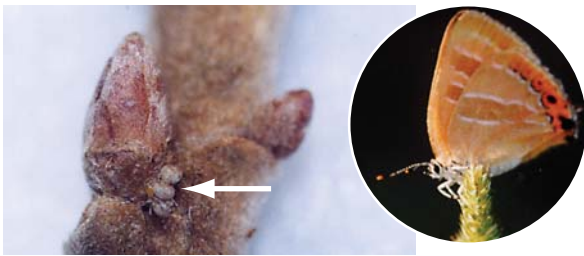
大正農業者トレーニングセンターのカシワの推定樹齢は350～400年、士幌町北中音更小学校のカシワは400年以上。

他生物との関わり

ダイセンシジミ、ウラジロミドリシジミ、ハヤシミドリシジミ、キタアカシジミ他の幼虫の食樹となる。

ドングリはネズミ類が食べる他、カラス、クマなども食べる。

穴の開いたドングリの中にはゾウムシの幼虫がいる。動物によって種子分散される。



カシワの冬芽脇に産み付けられたキタアカシジミ(円内)の卵
(卵の飼育・撮影-吉原利之)



エゾアカネズミ。カシワの種子を餌とし、種子分散にも寄与する。右はドングリから生えた実生

植栽関係

実生、種子による。ドングリは1年後に高い確率で発芽する。種子は新鮮で、虫食いのないものを選び、数日水につけて沈んだものを植える。ミズナラやカシワはいずれも陽樹で、陰地には育たない性質がある。樹齢45年で、直径32cm、樹高14m、根系の最大深度430cm、根の広がり半径1m。

根の支持力はきわめて強いので、風などの外力に対する抵抗性は大きい。移植の難易は中程度。切り株からは萌芽することが多いので、伐根の必要がない場合は、切り株を残す。剪定には強いので、支障となる枝を切り落としても死なない。

興味深い話

- 公園樹に用いられ、材は土台、船材、定規、樽などに利用される。若葉は蒸して乾燥させ、柏餅をくるむ。樹皮はタンニンを多く含み、鞣皮材や樺色、黒色の染色に用いる。
- 十勝地方のアイヌ語では「コムニ」といい、実（ドングリ）を「ニセウ」という。
- 秋に入るとクマは大好きなドングリを食べて食べて食べ

まくって冬眠する。カシワの木に実るドングリは丸くて小さいけれど、甘みがある。

■学名の意は、良質の材。

■花言葉は、自由。

■士幌町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、幕別町、本別町、池田町、それぞれ町村の木に指定されている。

配慮事項

樹齢45年で、直径32cm、樹高14m、根系の最大深度430cm、根の広がり半径1m。根の支持力はきわめて強いので、風などの外力に対する抵抗性は大きい。移植の難易は中程度。切り

り株からは萌芽することが多いので、伐根の必要がない場合は、切り株を残す。剪定には強いので、支障となる枝を切り落としても死なない。

参考文献

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995
「新装版 樹木根系図説」菊住昇 誠文堂新光社 1987
「日本のチョウ」上野明雄 小学館 1981
「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978
「北海道主要樹木図譜」宮部金吾・工藤祐舜 北大図書刊行会 1986
「北海道自然環境図譜」前田一步園財団 前田一步園財団 1991
「北海道樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館(編)、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004
萌芽更新を利用した広葉樹の施業 佐藤俊彦 年一巻号：光珠内季報 1999-116 p:14~p:17
広葉樹の実生による繁殖 久保田泰則 光珠内季報40巻 1979 p:16~p:26
「十勝の名木百選」十勝毎日新聞
<http://www.tokachi.co.jp/tree/index.htm>
「市町村の木、花指定状況」北海道
<http://www.pref.hokkaido.jp/srinmu/srdkkkr/homepage/midori/midori-homepage/>

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類